

中経

論壇

経営支援NPOクラブ
川上 博史



駅前の再開発により、従来は最寄駅まで直線で行くことができたところを迂回しなければならず、不便に感じていたのだが、ある時思い直して、この駅前工事をチャンスと捉え、健康維持のためにわざわざ遠回りし、10分以上かけて最寄駅に行くことにした。経路を変えて既に半年以上経つが、今まで意識すらしなかつたものが見えたり、これまでない奇想天外な発想が浮かんだり、今では通勤時の有意義な時間となっている。「遠回り」と言えば、「急がば回明かし、今の世の中や暮らし

れ」「急いでは事を仕損じる」などの諺(ことわざ)が良く使われるが、両方とも物事は落ちて慌てずに着実に進めることができ、結果としてうまくいくことを言い表している。

この「遠回り」と似たような考え方には、直線的思考に対する曲線的思考がある。直線的思考は、文字通り与えられた目標に向けて最短ルートを一直線に走り、できる限り人・モノ・金の無駄を省き、短時間で達成しようとする考え方だ。これに対して、曲線的思考は、社会のさまざまな現象を見ながら、それぞれの関わり方や因果関係などを解き明かし、今の世の中や暮らし

遠回りのすすめ

に足りないもの、不足しているものなどを探し出し、新たに創り出すとする考え方といえる。

直線的思考が左脳主体で理性的であるのに対し、曲線的思考は右脳主体で情緒的なだ。かつて本由宗一郎社長が、社内で年一回「役に立たないもののコンテスト」を開催し、社員に競わせていたことを著書で読んだことがある。ある大会で優勝したのは「角輪車」を作ったチーム。その時点で全く役立たずと思われた角輪車のサドルの構造が、モトクロスでホンダのオートバイ

が優勝する決め手になつたという話で、この例は遠回り思考の利点をよく表している。

直線的思考から曲線的思考へ

話は変わるが、事業の成長ステージを「創造期」「成長期」「優位性確立期」「効率性追求期」の四つに分けて、そのステージごとに経営戦略を検討する、BCGダイヤmondという経営戦略策定の仕方がある。この中で一般的には、

「創造期」は曲線的思考、「効率性追求期」は直線的思考がなじむと思われる。しかし、かつて半導体大国といわれた日本は、今日その面影はなく低迷している。このことは、「効率性追求期」にあつても、直線的思考一辺倒での効率最優先だけではうまくいかないことを示している。外

の変化に対応し、遠回りを悟して、曲線的思考で新たな独創的なものを生み出す環境で創出する、国家をあげてのイノベーションを起こす時期に来ていると思う。